



くじらぐも放課後等デイサービス事業者自己評価結果

令和4年2月実施

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		・午前中に児童発達支援を行っており、放課後等デイサービスの利用人数を絞っているため、スペースには十分に余裕がある。
	2	職員の配置数は適切であるか	○		・おおよそ利用者2名に対して職員1名の割合で配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○		・室内はバリアフリー、玄関に手すり設置、トイレに補助便座を設置している。 ・情報伝達のためのホワイトボードと掲示板を設置している。 ・指導訓練室、静養室、事務室、浴室、トイレなど、入り口の扉にはサインを取り付けている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○		・週1回職員会議を行い、支援の目標設定と振り返りをしている。 ・会議に参加することができないパート職員に対しても、会議の内容を伝達している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		・当事業所は開所1年目であり、評価を受けるのは今回が初めてである。 ・今回の評価を事業改善につなげたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		・当事業所は開所1年目であり、評価を受けるのは今回が初めてである。 ・今回の評価結果はホームページ・インスタグラム・Facebookページで公開する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		・利用者が契約している相談支援事業所の相談支援専門員に訪問してもらい、支援計画や支援内容の評価を受ける機会を設けている。 ・評価の結果を事業（支援）改善につなげている。

適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、事業所内研修として、①マニュアル（送迎・防災・虐待防止）研修・②HUG活用研修・③ビジネスマナー研修・④作業療法を支援に取り入れるための研修（外部講師招集）・⑤強度行動障害支援者研修報告会を実施。 ・職員には研修報告書を作成し提出することを義務付けている。 ・行動援護従業者研修と富山県主催の強度行動障害支援者養成基礎研修受講の機会を確保し、資質の向上を行った。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントのための面談の際は、児童発達支援管理責任者だけでなく、支援に携わる職員も1名以上同席している。 ・利用者と保護者のニーズや課題を事業所全体で把握し、個別支援計画の作成と支援に活かしている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・成長療育支援システム（HUG）のアセスメントツールを使用し、基本的事項・かかりつけ医・生活歴・主訴・要望・備考などについて詳細に記載している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービスクラス主任を中心に、職員全員で活動プログラムの立案会議を行っている。 ・活動プログラムはカテゴリー別に担当者を設け、担当者が立案した内容を職員全員で検討→決定→実施している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・毎回振り返りを行い、利用者にもふさわしいものに改善を加えている。 ・前月からのステップアップが図れるプログラム作りと成長につながる活動や課題のための教材提供を行っている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・平日、休日、長期休暇に応じた、タイムスケジュールが設定されており、児童の発達や成長に必要な課題や季節にあった活動を行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて次号発達支援・放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には集団活動であるが、子どもと保護者の希望により個別活動を実施することもある。その際にはそれに合わせた支援計画を作成している。

適切な支援の提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 朝礼または昼礼時に当日の利用者、職員の役割、特に配慮が必要な児童の有無、活動プログラムと教材等の確認をしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 支援終了後、職員全員で振り返りを行い、各自の気づきを共有し次回の支援につなげている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 記録を取ることを徹底している。 記録は成長療育支援システム（HUG）のマイページで保護者がいつでも確認できるようになっている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> おおよそ6ヶ月ごとにモニタリングを行い、計画の見直しをしている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 職員全員が放課後等デイサービスのガイドラインのねらい及び支援内容を周知している。 保護者から個別支援計画の同意を必ず得ている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援管理責任者と支援に携わる職員が2名体制で参加している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 利用者または直接利用者が通う学校から「下校予定表」を受け取り、送迎が円滑に進むようにしている。 学校からの要望に応じて、相談支援専門員と連携して、事業所での様子を伝えるなど情報共有を密にして支援している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケアが必要な児童の受け入れは行っていない。

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、相談支援専門員と連携して、就学前に利用していた保育所や幼稚園等との情報共有や相互理解を図っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の利用者は小学生のみである。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所と連携し、専門家（作業療法士）を招いて、研修を行った。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日や長期休暇を利用して、地域の児童館を訪れ、本を借りたり、工作教室に参加したりしている。 ・事業所の隣の公園で、障がいのない地域の子どもたちと一緒に遊ぶことがある。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・参加できる組織を探したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・送迎の際に、家庭や学校での様子を聞き取ったり、不安や心配事がないかを訊ねたりしている。 ・日々のサービス提供記録とモニタリングの際に、利用者の成長や課題について伝達し、今後の支援について共通理解が持てるように努めている。
保護者への説明責任	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の不安、心配、希望などに耳を傾け、必要に応じて助言をしたり、関係機関と連携したりしている。 ・子どもの個性や長所を保護者と共感しながら、家庭でできる取り組みや環境設定のヒントを知らせるようにしている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・利用契約時に重要事項説明書の読み合わせを丁寧に行い、不明点がないかを確認している。

保護者への説明責任

31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からの連絡や相談に迅速に対応するためのツールとしてLINE交換をしている。 保護者の要望に応じて、事業所内相談の時間を設け、必要があれば、相談支援専門員や保健師にも同席してもらい、悩みが解決できるように努めている。
32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はコロナ禍だったこともあり、保護者会の開催は見合わせたが、土曜日のイベントに保護者の参加を呼びかけ、保護者同士・職員と保護者との交流を図ることができた。
33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> 苦情を聞いた職員が速やかに主任または児童発達管理責任者に伝達している。 苦情の内容を職員全員に周知し、ミーティングで取り上げ、苦情に対する対策を決定し、保護者に説明している。
34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○	<p>年に3回、「くじらぐも新聞」を発行し、地域への回覧、関係各所（保育所・子ども園・幼稚園・学校・相談支援事業所など）への配布、SNS（ホームページ・インスタグラム・Facebookページ）での公開を行っている。</p>
35	個人情報に十分注意しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> 職員には雇用契約時に秘密保持誓約書の提出を義務付けている。 利用者には利用契約時に個人情報の取り扱いについての説明をし、個人情報使用同意書を作成している。 SNSは保護者の決定事項を遵守し掲載している。
36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	<ul style="list-style-type: none"> 言葉や文字だけでなく、絵表示や写真などを用いて良好な意思疎通や情報伝達ができるように心がけている。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内覧会に地域住民を招待した。 現在、地域在住の看護師をしていた女性が週3回ボランティアで支援に参加しており、とても心強く感じている。 現在はコロナ禍であるため互いに自粛しているが、将来的には地域との交流を深めたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> マニュアルは保護者がいつでも確認できるように、ファイリングしてロビーに設置している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 防災マニュアルと訓練計画を作成し、利用者参加（小学生以上）で訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に事業所内研修として虐待防止マニュアルの確認を実施した。 今後は外部研修参加の機会を確保したい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		○	<ul style="list-style-type: none"> 身体拘束は行わない方針である。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		<ul style="list-style-type: none"> アセスメントの際にアレルギーの有無を確認している。 おやつや調理体験で材料を用意する際には、参加児童のアレルギーの有無を確認するとともに、なるべくアレルギーフリーの食品を選ぶようにしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 報告書作成後に、事例検討会を開き、発生原因や改善点について話し合い、事業所としての決定事項を職員全員が把握し、同じヒヤリハットが起らないように努めている。